

令和7年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要  
多角化経営部門

酪農経営を基盤とした新しいビジネスモデルの構築を目指す

○氏名又は名称 有限会社 ナカシマファーム（代表 中島 大貴）

○所 在 地 佐賀県嬉野市

○出 品 財 経営（酪農、飼料稲、二条麦ほか）

○受 賞 理 由

・地域の概要

嬉野市は、佐賀県の南西部に位置し、比較的温暖で多雨な気候の地域である。塩田川・吉田川・鹿島川流域の平坦地域では土地利用型農業（米、麦、大豆）を中心に施設野菜・露地野菜との複合経営が主体であり、盆地を含む山麓・山間地では茶を中心とした産地が形成され、稲作との複合経営が主体となっている。また、散在する畜産農家は稲作等との複合経営を行っている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

現代表は平成21年に、父親が水田農業と酪農の複合経営を法人化した有限会社ナカシマファームに就農し、平成24年からチーズ製造を開始、令和元年にミルク出しコーヒーを考案して自社のカフェで提供するなど、酪農経営の基盤を強化している。飼料稲・麦を栽培し、堆肥化した家畜排せつ物は牛舎の敷料や水田へ施肥するなど循環型農業を実現している。

・受賞者の特色

（１）酪農を基盤とした付加価値の創造

牛の発情や分娩の兆候等を社員がスマートフォンで共有できる体制を整備し、受胎率を向上させており、生産された生乳の一部は自社製造の様々なチーズの原料として使用するほか、チーズ製造で出る大量のホエイも独学で乳製品として商品化した。

（２）逆転の発想による多様な働き方の実現

常に飼養管理が必要になる酪農の実態や、生産から製造・販売までを全て行うことで周年雇用を安定化、部門を横断して多様な働き方を導入し、さらに機械化・省力化を進めることで男女の差なく仕事ができる環境を実現している。

・普及性と今後の発展方向

新たに開業した九州新幹線駅前や旧長崎街道の古民家へのカフェ出展など、街づくりに貢献するとともに、地域交流牧場として地域の教育機関の修学旅行を受け入れ、牧場体験を通じて酪農への理解や命の大切さを学ぶ機会を提供するなど、さらに酪農の可能性を追求し、酪農を通じた新しい文化の創造に取り組むことで、地域の活性化に貢献することが期待される。